



Book Review

評者：片山陽子 香川県立保健医療大学教授

精神疾患をもつ人を、 病院でない所で支援するときにまず読む本 “横綱級”困難ケースにしないための技と型

著：小瀬古伸幸／定価：本体2000円＋税

発行：医学書院／TEL：03-3817-5657



卓越した看護師の「技」と思考を学ぶ教材にも

本書は、地域で実践している支援者、特に「難しい人」と感じる対象者を支援している人には、まず手にとってほしい本です。日々の実践で感じている「誰かに相談したい」「明日から実践できる具体的な対応方法が知りたい」そんな思いに応えてくれる道標となる本です。多くの人が一歩引いてしまうようなケースの考え方と対応方法について、[精神科認定看護師であり訪問看護師]である小瀬古さんが、地域で生活している利用者に向き合い思考錯誤しながら協働する支援者らとともに見出してきた「技」と「型」が余すところなく書かれています。その提示は精神疾患の症状別ではなく、生活や行動という目に見える特性ごとにケースを解説しています。

サブタイトルにある“横綱級”は疾患の重症度ではなく、対人関係的な意味です。『精神疾患をもつ人を……』と題されていますが、本書で紹介された「技」は、精神疾患の有無にかかわらず使えるものが多く、幅広い領域で参考になるでしょう。

第1章では、「当事者である本人の主体性なくして地域生活は組み立てられない」ことを念頭に、地域と病院の違い、地域における対象のとらえ方や支援者である私たちのあるべき姿勢について示しています。それは、本人が主体性をもち、自身のセルフケア能力が上がり「希望を意識し、いい感じの自分」を保てる支援のあり方です。

第2章では、“横綱級”困難ケースごとに見る技として、「リストカットがやめられない人」「発語が少なく、思いや言葉を出しにくい人」などの困難ケース11事例について、ケースごとに複数の対応技を紹介しています。まるで動画を見ているかのように、具体的な場面と対応が時間の経過をたどる形で描写され、ケースと小瀬古さんたち訪問看護師の言葉のやりとりまで詳細に記述されているため、読者はその「型」と「技」が明日から活用できることを実感するはずです。たとえば、要求をエスカレートさせていく人に対する「折り合いがつけられそうな落とし所の見通しをつける」対応技など、訪問看護師がどう考え、どのように対応したのか、その結果対象者はどう変化したのか、そのときの訪問看護師自身の思いも振り返りながら提示しており、看護学生が看護師の思考を学ぶ教材としても秀逸です。

第3章では、精神科訪問看護必須の型として、精神科訪問看護の特徴をふまえた初回訪問から死亡に至るまでのさまざまな場面ごとの技を紹介しており、本書が、精神科訪問看護の実践の知識やスキルを凝縮した良書であることを実感させてくれます。

利用者の自宅に訪問し支援するとき、相手を難しい人と思いながら支援することは支援者にとってつらいものです。出会えたことに感謝する1冊です。